

# OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第246号 2015年11月7日

OCHADAI GAZETTE Autumn, 2015



写真：孫田 佳奈

## 次の140年に向けて 心の窓を世界に開こう

### CONTENTS

#### TOPICS

- |  |  |
|--|--|
| 学長からのメッセージ…………… 1-2<br>次の140年へ!!           | 附属学校園からのお知らせ…………… 7-8                                |
| 学生のアクティビティ…………… 3-4                        | キャンパス点描…………… 9-10                                    |
| 教員紹介…………… 5                                | ● 学部オープンキャンパス2015を開催しました。                            |
| ● 清本 正人先生<br>(基幹研究院自然科学系准教授)               | ● 「新フンボルト入試」プレゼминаールを開催しました。                        |
| 卒業生紹介…………… 6                               | ● Ms.Ocha(ミズ オチャ)の第一弾グッズ<br>『Ms.マグ & ミニプレート』が誕生しました。 |
| ● 沼田 みゆきさん<br>(人間文化研究科ライフサイエンス専攻博士前期課程 修了) |  |



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

# 学長からのメッセージ

## 次の140年へ!!



学長就任以来、様々な場で、お茶の水女子大学が今年、創立140周年という記念すべき節目の年を迎えることを申し上げて来ました。140年という長い歴史の中で、先人達が積み重ねてきた教育・研究の成果と本学で育った女性たちの活躍が、わが国の女子教育の基盤を創ってきたと言っても過言ではないと思っています。さらに、2004年の国立大学の法人化に当たって、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」とのミッションを掲げ、国境を越えて、女性たちの資質能力の開発を支援してきたことは、着実に成果を挙げています。法人化の前年の2003年から開始したアフガニスタンの女子教育支援を契機に、学びたくても学ぶことが困難な国々の女性たちにも門戸を開き、彼女たちが尊厳と権利を保障されて、自由に自身の学びを深化させることの出来る場としての役割を果たしてきたことは、本学の教職員の誇りともなっています。また、それが、卒業生や在学生達の心に、世界への窓を開く機会ともなってきたと信じています。そして、それらの実績

に基づいて、私たちは、次の新たな140年を築いていきたいと決意を新たにしています。

11月29日に創立140周年記念式典を、またその前後に関連行事を計画しています。詳細は既にホームページに掲載されています。ご確認の上、是非、ご参加下さい。多くの方々のご参集とご協力を期待しています。

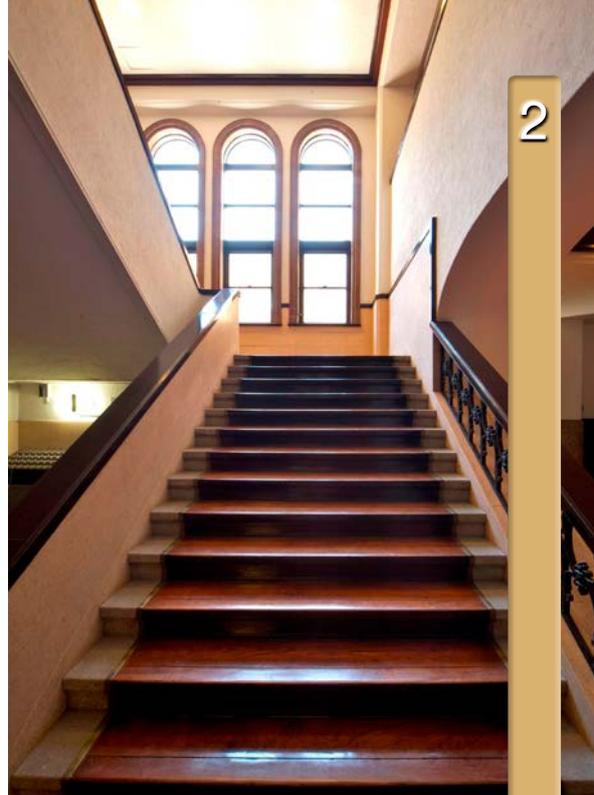
今、社会には様々な課題が顕在化し、国立大学にも、社会からの要請に応じた多様な改革が期待されています。そんな中で、次の140年に向けて、お茶の水女子大学がどのような将来図を描いたら良いかを、皆さんと一緒に考え、実現させて行きたいと思っています。特色ある魅力的な教育で学生さんたちと感動と夢を共有し、本学ならではの卓越した研究で学术界や社会に驚きと感動を発信して、教育・研究の成果を以って世界の平和と人々の幸福のために貢献していくことを目指したいと考えています。



Ochanomizu University Library



Ochanomizu University Library



今年はまだ、本学にとって創立 140 周年と言う記念すべき年であると同時に、第二次世界大戦が終結を見てから 70 年、同時に、国際連合創設 70 周年に当たります。さらには、御巣鷹山での日航機墜落から 30 年、そして阪神淡路大震災から 20 年と、日本の歴史にとって、悲しみに彩られた出来事の節目の年にも当たっています。いずれも、わが国の人々の生き方に大きな影響を与えてきましたが、本号では特に、第二次大戦後 70 年と言う節目に当たって、私達日本人が心に留めて置きたいこととお話したいと思います。

1つは、この区切りの年に当たって、日本が 70 年間にわたって他の国の人々や国土を害することなく、平和を守ってきたことを忘れてはならないということです。皆さんには、この平和への貢献というわが国の素晴らしい実績を、世界市民として、誇りに思ってください。

また、国際連合が創設されて 70 年と言うことは、世界の国々が恒久的な平和を希求し「二度と世界大戦を起

こさない」という決意の下で設立した国際機関が、70 年にわたって存続し、機能してきたことを意味します。そしてわが国は、国連の一加盟国として、核不拡散条約の成立を主導するなど、平和維持に向けて大きな役割を果たしてきました。このことも、私達は誇りに思っていることだと思えます。

世界中の人々が平和で幸せな生活を望んでいるにも拘らず、現在、世界中で争いや災害などの様々な困難が起こって、人々の穏やかな生活が脅かされ、多くの人々の命が失われている状況があります。東日本大震災からの復興も、まだまだこれからです。そんな中で、日々の暮らしが穏やかに続くこと、普通の生活を送ることが出来ること、人々が信頼と愛で結ばれて暮らせることの大切さを、心に刻んで頂きたいと思っています。そして、弱い立場にある人々への思いやりを忘れず、自分たちに何ができるかを、問い続けて頂きたいと願っています。

2015 年 11 月  
学長 室伏 きみ子



Ochanomizu University Library

学長からのメッセージ  
次の 140 年へ!!

# 学生のアクティビティ

(お茶しょ?)

# 「140にお茶女?」

(いっしょに)



きた  
来る11月7日、8日に開催されるお茶の水女子大学  
学園祭「きいんさい徽音祭」。私たち広報アテンダントは、この  
きいんさい徽音祭に己の全てをかけてきた三人のヴァイーナス実行委員と  
一緒にお茶してきました!!



**岩城舞鈴**  
Marin Iwashiro

実行委員長

文教育学部  
人間社会科学科  
グローバル文化学環 3年

## どんな仕事なの?

**司** (以下、**司**) まずは各役職のお仕事を教えてください。

**岩** (以下、**岩**) 委員長の仕事は、主に2、3年生だけで行う執行会議や、全体会で司会をしたり、全体を見ることです。他にも大学と外部のつなぎ役として、取材の対応といった広報としての仕事もしています。

**司** なるほど…全体を見る大事な役目で、お二人からも信頼がありそうですね(ちらりと興梧・岡田を見る)  
(興梧・岡田 笑顔で頷く)

**岩** いやいや(笑) 実行委員は全体で130人いるのですが、その中で3年生は9人しかいません。その分結びつきが強く、みんなワイワイした感じですよ~!

**司** いい関係なんですね。続いて興梧さんのお仕事は?

**興** (以下、**興**) 渉外には5つの担当があるのですが、私は部局長としてそれぞれの仕事の様子を確認し、全体をまとめる仕事をしています。

**司** そうなんですね~。まとめ役として大変なことはありませんか?

**興** 部局長になると指示してくれる人がいないので自分で足りないところを探さなくてはならなくて…。自分から動かないといけなくて、1、2年生までとは違う大変さを感じています。

**司** ありがとうございます。では続いて岡田さんお願いします。

**岡** (以下、**岡**) 私はもう名前のとおりなんです(笑)。会計として、去年のデータなども参考にしながら全体の予算を決めたり、細々した収支の計算をしています。それから、今年は実行委員全体の徽音祭当日のシフトを組む仕事もしています。二人がかりでこの間やっとならったところなんです!



**興梧侑**  
Yu Kourougi

渉外部局長

生活科学部  
人間生活学科 3年

**岡田悠理子**  
Yuriko Okada



会計

生活科学部  
人間生活学科 3年

**司** へええ! それってもしかして…130人分ですよね?

**岡** はい(苦笑)。前日と当日合わせて3日分。これからは微調整が大変なのかな、というところですよ。

## どうして実行委員に?

**司** 実行委員になろうと思ったきっかけは何ですか?

**岩** 1年生のときは、はっぴがかわいいと思って入りました(笑)

**興・岡** わかるー!!

**興** 私はそれもあるけど、岡田さんと同じ学科で最初に仲良くなったから、みんなで一緒にやろうということになりました(笑)。

**岡** そうそう(笑)。それ以外にも私は、高校生のときは部活動一本だったから、大学に入ってから学校の行事などにも関わってみたいという思いがありました。

## 実行委員を 続けてきた想い★

**司** なるほど、皆さんいろいろな想いがあるんですね。3年間ここまで委員を続けてきた理由や思いはありますか?

**岩** そうですね、忙しいのもあって3年生まで続ける人は少ないですね。私は1、2年生のときは企画担当をしていました。1年生のときは楽しかったのと比べ、2年生のときはルールの周知など実行委員の仕事の難しさを実感し、とても大変な思いをしました。そこで、3年生になったらどんな思いを抱けるのか気になりました。また、自分の行うことでお客さんに影響を与えられることのやりがいもあって、続けようと思いました。

実行委員に聞いてみた!  
テーマの由来は?

今年度テーマ「140にお茶女? (いっしょにお茶しよ?)」の由来は… 140周年を前面に押し出しました。去年までより短いテーマにすることで、覚えやすく親近感を持ってもらえるような感じを目指しました。かわいらしく、みんなで一緒に楽しみましょう! という想いを込めました。

第66回徽音祭公式キャラクター『きいちちゃん』



● お茶大神輿「花みこし」

OGの方を含めたお茶大に関わる人たちにお花を作ってもらい、それらを飾っているお神輿です。本番でも担いでいる最中に色々な人に花をつけてもらいます。お茶大創立140周年にふさわしい、大きく華やかなお神輿は必見!

● 新企画 徽音座の歌姫

お茶大の歌姫を決める「徽音座の歌姫(きいんざのうたひめ)」を開催いたします! 観客参加型の企画も予定しております。歌あり、踊りあり、クイズあり! の歌謡ショーをどうぞお楽しみに!!

● 水コン&お茶パラ

今年もお茶大のNo.1 美女&ハンサムを決定します!

水コンとは、お茶の水女子大学のミスコンのことであり、《お茶大生の憧れるお茶大生No.1》を決める徽音祭の一大イベントです。お茶パラでは、容姿、内面、立ち振る舞い、様々な面で「カッコいい」5人のファイナリストが集結! 可愛いだけが女子じゃない! そんなお茶大生の一面を見ることが出来ます。

★ ここだけの裏話…

司 1、2年生の経験をポジティブに捉えられていて素敵ですね。それでは興侶さんはどうですか?

興 1年生のときに一緒に仕事をしていた2年生の先輩が大好きで、その方が3年時もやると言っていたから一緒にやりたいと思い、2年生でも続けました。その時点でもう、3年生でもやりたいと思っていました。委員をしていく中でみんなの仲も深まっていくと思ったので。

司 ありがとうございます。続けて岡田さんお願いします。

岡 私も1年生のときは、大好きな先輩にやらない? と誘われて、私の所属していた野外ステージ担当は、当日2日間ずーっと外にいて、寒くて大変でした。だからあまり続けたがる子がないという中で迷っていたけど、参加団体や、業者さんとも関わることができ、やりがいのある仕事だったので3年時も続けようと思いました。

司 実行委員だからこそ知っている裏話とかってありますか?

岩・興・岡 裏話… (悩みこむ)

司 そんなに考え込まなくて大丈夫ですよ(笑) 一般の人があまり知らないような情報とか…

岡 うーん、ちょっと違うかもしれませんが、総務部局が大変そうだなあとと思います。衛生、電力など実務的なことをするのですが、とにかくごみの仕分けが大変そう。担当の子たちは全員ごみ箱に張り付いていて、6時間くらいずっと立っていることも! 私はイベントを見ていて楽しかったけど、その子たちは本当に大変そう。

司 でもたしかに、ごみの分別をしっかりしてくれているなあということは毎年感じていました。そうした影の努力があってこそなんですよ。

岡 それから、実行委員の中でトークショーゲストのサインをいただけて…満端淳平さん(2014年ゲスト)のサインをいただきました!

司 それは実行委員ならではのですね!

★ 来場者に向けて

司 最後に来場者へのメッセージをお願いします!

岩 大学自体が小さいので徽音祭も規模としては小さいけれど、様々な人に楽しんでもらえるような内容を企画しています。誰が来ても楽しめる自信を持って言えます! お茶大ならではのものがあるし、140周年だし、ぜひ来て楽しんでください!

興 実行委員の企画はもちろん、サークルや学科など一つ一つの参加団体も凝ったものを作っています。人数の少ないお茶大だからこそ、みんなで仲良く協力し合っているの、良いものがたくさんあります。ぜひ見てみてください!

岡 大体言われてしまいましたが(笑)。最後に、徽音祭は私たち実行委員だけでなく、参加団体、サークルなど、大学全体が関わっています。たくさんの方が来てくれると私たちみんなのやりがいになるので、皆さんに来てほしいです!!

司 ありがとうございます!!

やりがいは?

司 やりがいはどんなところですか?

岩 実行委員は当日、学内を常に走り回っています。ゆっくりはできないけれど、普段意識しない大学の色々な面を見られて、お茶大のことをより知れるという楽しみがあります。

興 去年はパンフレットを作る仕事をしており、今年は装飾も含めた部局の統括をしています。どちらもその年のテーマに合わせて1から自分たちで制作しているんです! 学園祭当日、来場者の方が装飾やパンフレットを見たり使ったりしてくださっているのを見て感動しました。

司 すごく充実している感じですね。ありがとうございます。



編集後記

● 本記事の編集を担当しました広報アテンドです! 隣のページの上の写真の実行委員の方々の後ろにいるのが私たちですよ。

● 普段は広報のお手伝いとして、大学見学に来てくださった方たちに学内の案内をしています。

● 文責: 文教育学部4年 山口 ゆみ、理学部3年 金子 紗梨、生活科学部4年 沖田 百世

● これからお茶の水女子大学を見学したいという方も、お茶大の魅力をどんどん発信していくので、ぜひ活用ください。

● 皆様にも少しでも徽音祭と実行委員の方々の魅力をお届けできたら幸いです。

# 教員紹介

今回は、基幹研究院自然科学系准教授で湾岸生物教育研究センター長の清本正人先生をご紹介します。先生は大学院ではライフサイエンス専攻生命科学コース、学部では理学部生物学科にご所属です。



*Kiyomoto Masato*  
清本 正人

## 母なる海の多様な生き物の面白さを伝えたい

### Q ご出身、ご経歴などについて教えてください。

出身は、鹿児島県種子島です。親が漁師で、家の前が海という環境で、網で伊勢エビを捕まえ、磯遊びをして育ちました。ただ、船酔いが酷いので、漁師にはなれないと子供ながらに思いました。学部と修士課程は鹿児島島大で過ごし、研究分野としては、海というフィールドで自分で研究材料を調達しながら、実験室で生き物の体の中のメカニズムを調べられる、発生学を選びました。

修士の時の発生生物学会で、お茶大の館山臨海実験所(現：湾岸生物教育研究センター)の所長をしておられた根本心一先生に直談判し、館山での夏の公開臨海実習に参加させてもらったのがお茶大との最初のご縁でした。その実習で、のちに岡山大学の臨海実験所に移られる白井浩子先生と出会ったことがきっかけで、博士課程からは実験所のある岡山の牛窓でヒトデの卵の発生について研究しました。その後、養殖研究所の二枚貝の研究室の研究員を経て、1993年6月にお茶の水女子大学理学部の助手に就任しました。1996年から臨海実験所に勤務することになり、館山に研究室を移しました。以後、講義や会議のために週に1~2回、館山から茗荷谷に通動しています。

### Q 現在の研究内容について教えてください。

専門は、ウニやヒトデの発生学です。細胞がどのように分化していくか、幼生の骨格や消化管がどのようにできてくるのか、幼生の形から親の形が変わるときにどのような変化が起こるのか、などをテーマに研究しています。研究に使うウニやヒトデは、その都度、海から採集するのが一般的ですが、研究室で継代維持することに成功しており、ヒトデの幼生の体のどこから生殖細胞ができるかを明らかにするような研究も行っています。

### Q 野外教育施設と湾岸生物教育研究センターについて教えてください。

館山にあるお茶大の施設のうち、「野外教育施設」は支障のない限り学生・教職員等がいつでも利用できる宿泊施設です。私の勤める「湾岸生物教育研究センター」の方は、海の生物やフィールドの授業や研究のための施設です。1970年に理学部附属の臨海実験所ができ、2004年に全学施設の湾岸生物教育研究センターと

なりました。

ここでは、教育関係共同利用拠点として、臨海実験所がない大学の実習指導も受け入れており、毎年8大学位が利用しています。また、毎年10校位の高校も1~2泊の臨海実習を行っています。ウニの受精から幼生までの発生や、さらに幼生が棘だらけのウニの形に変わっていくまでの観察、潮の引いた磯での動物や海藻の採集、ポートを使ったプランクトンの採集などが主な内容です。

また、関連した活動として、各学校へ実験材料の提供を行っています。最初は、学校の先生になった卒業生からの依頼で材料の提供を行っていたのですが、センターで始めた理科の教員研修のアフターサービスとして対応をあげました。現場の先生がより簡単に使えるようにした、冷蔵庫で保存できる卵と精子を使った「受精と発生を観察キット」は、毎年、全国100校程度、約1万人の生徒に提供されています。その他、小さい入れ物に入れた幼生をウニになるところまで自分で育てる「ポケット飼育」キット、他にも、海藻、魚などの実験材料を小・中・高校に送る「海からの贈り物」などのサービスを提供しています。

### Q 湾岸生物教育研究センターで行っている、お茶大生向け実習について教えてください。

夏に全学対象のLA科目の実習を2つ行っています。海洋環境学ダイビング実習は、大学のプール実習(7月中に1日)で潜水の機材に慣れたあと、4泊5日の日程で館山の海で行います。3日間はトレーニングになりますが、最後にサンゴや魚など海洋生物の観察実習を行っています。水深20m位まで潜りますので、深さの違いによる海の中の環境の変化などを実際に体験して学ぶ事ができます。もう1つの基礎生命科学実習では、2泊3日、磯の生き物やプランクトンの採集・観察を行い海の生物の多様性を学びます。また、年に2回(春休みと夏休み中)、お茶大生に限らず、全国から受講者を募集する公開臨海実習を行っています。学外の専門家の指導や外国の研究者による英語のレクチャー・実習など、内容は盛りだくさんです。

この他に、生物学科の学生が泊まりがけで行う専門科目の実習(植物系統学臨海実習、動物系統学臨海実習、動物生理学臨海実習、発生生物学臨海実習)を行っています。私の研究室に所属する卒研究生や大学院生は、センターに泊まり込みで毎日研究活動を行っています。

### Q 館山の海域にはどのような特徴がありますか？

相模湾や駿河湾にも共通する特徴ですが、日本海溝につながる深い谷が陸の近くまで入って来ていることで、これは世界的に見てもとても面白いことです。岸に近い方は浅いですが、船でちよつと沖の方に出るとすぐに100m、200mと深くなり、深海へと続いています。このため、深海性のフクロウニという変わったウニを水深30mあたりで観察したり、ウミユリなどの深海の生き物を実験用に入手することができます。

また、房総半島は南からの暖かい海流と北からの冷たい海流の境目に相当するので、浅い海では、造礁サンゴなど南の方の生き物も見られます。下の写真のように、大型の褐藻とサンゴが同じところに見られる景色は温帯域の特徴で、南の海では見られません。

夏には、大勢の人が海水浴に来て遊ぶので、磯も荒れてしまっ、秋には生き物の数がぐんと減ってしまいます。でも、冬を経て春になると、また前年と同じようにたくさん種類の生き物が戻って来ています。生命力の強さには本当に驚かされます。

### Q お茶大生へのメッセージをお願いします。

館山の施設はいろいろな学校が利用するので、今どきの首をかしげなくなる学生も多く見かけるのですが、常識をわきまえて本分を全うしようとするお茶大生の態度はとても好感がもてます。一方で、もうちよつと“遊び心”があってもいいのかな、という気がします。良い意味での遊びの中から面白いことが見つかることもありますし、そういった発見を常識が邪魔しているかもしれません。気楽に“ばか”を試してみるちよつとした冒険も良いのではないかと思います。お茶大の野外教育施設は最近リフォームしてとても綺麗になりました。せつかくの施設ですので、皆さんにはぜひここを利用して館山を楽しんでもらいたいと思います。様々な授業も用意されていますので、興味があったら履修してみてくださいいかがでしょうか。

文責：基幹研究院自然科学系准教授  
近藤 るみ



# 卒業生紹介

## 新たな将来の夢 ～子どもに語りたいたい仕事の大変さ、楽しさ～



Numata Miyuki  
沼田 みゆき

帝人株式会社  
技術本部 情報分析班

神奈川県出身

2001年 生活科学部生活環境学科  
生活工学講座 卒業

2003年 大学院人間文化研究科  
ライフサイエンス専攻  
博士前期課程 修了

同 年 帝人株式会社入社

沼田みゆきさんは、生活科学部生活環境学科生活工学講座を卒業後、大学院ライフサイエンス専攻博士前期課程に進学し、修了後、2003年4月に帝人株式会社に入社した。沼田さんにとって、帝人は、最初に入社を希望するエントリーシートを送り、最後に研究職として内定が出た会社だった。当時、沼田さんは、研究職にこだわらず就職活動を行っていて、研究職として帝人に入社するかどうかを最後の最後まで迷っていた。帝人に入社を決めたきっかけは、沼田さんのお父様と修士論文指導教員の言葉だった。「医薬品の分析の仕事に携わっていた父は、新しい製品を作りだすことができるのはメーカーの研究者の醍醐味だと教えてくれました。そして指導教員の先生は、研究以外の仕事は研究職として就職した後でもできるとアドバイスを下さいました。そこで、研究職として新しい製品を世に出すこと、そして将来的には研究だけではなく、幅広い視野で物事を考えられるようになりたいという目標を持ち、帝人へ入社することに決めました。」と、沼田さんはこの時のことを振り返っている。

2003年に帝人へ入社後、愛媛県松山市にある帝人の研究所で、繊維の基礎研究に従事することになる。生まれて初めての一人暮らしで、しかも同期入社の中で愛媛に配属された女性は一人だけ。この環境で仕事を続けていけるのだろうか、沼田さんは不安の連続だったが、次第に環境に馴染んでいき、自分の裁量で研究を進められるようになって、仕事に楽しさを感じるようになっていった。

### 商品化へのステップ

2006年、入社当時から研究開発していた目標の繊維が、商品化のフェーズへと進むことになる。沼田さんは、今までと同じように研究だけをしていればよいのではなく、関

係部署の人たちと議論し、また市場で求められているニーズを調査する必要に直面した。工場の生産部門や繊維から織物・編物にする加工部門の人たちと、開発した繊維の特徴は何か、どうやったら特徴を活かせるかを話し合い、また一方で、営業部門の人たちと商品に興味を示して下さるお客様のところへ伺って要望を聞いて回り、市場ニーズの収集を行ったそうである。多くの人たちと議論を重ね、どのようにしたら開発した繊維ならではの商品ができるのかを模索する日々となった。そしてその結果、「ナノフロント(NANOFRONT)®」として商品が上市され、2008年には「毎日を変えるナノテク素材「ナノフロント」」として第35回繊維学会技術賞を受賞することになる。この商品化の過程は、社内外を問わず様々なバックグラウンドを持つ人たちと一緒に議論しながら商品を作り上げることの大切さと楽しさを体感する、沼田さんにとって大変貴重な経験となった。「ナノフロント(NANOFRONT)®」とは、直径が700ナノメートルで、1本の糸の断面積が髪の毛の7500分の1という、超極細ポリエステルナノファイバーである。現在、高い摩擦力による「滑りにくさ」を活かして、ゴルフ用手袋やソックスなど幅広い用途で使われている。

### 出産そして育児と仕事

沼田さんは、松山で働いている時に結婚し、出産、子どもが7か月の時に職場復帰した。「仕事が順風満帆の時に、結婚し、子どもを持つということは、仕事をやめざるをえないことではないか」と、沼田さんは当初思っていたが、そのような時、上司が「たくさん責任は、人生を豊かにする。変化に臆することなくチャレンジしなさい」と言って背中を押して下さったそうである。沼田さんは、その後も恵まれて二人の男の子

の母となる。二人の男の子の子育ては想像以上に大変で、朝7時頃子どもたちと別れ、夜7時頃保育園に迎えに行き、ご飯を食べてお風呂に入るともう寝る時間という毎日となった。子どもたちにいつも寂しい思いをさせているのではないかと思いつつも仕事を辞めずに続けてこられたことを、沼田さんは次のように語ってくれた。「応援して下さる会社の方々、仕事に理解を示してくれる主人、日ごろからお世話をしてくれる両親、そして『がんばってね』と言ってくれる子どもたちに支えられているからこそだと思っています。いつの日か子どもたちが大きくなって社会に出る時に、母が会社でどんな仕事をしてきたかということや仕事の面白さを話してあげられたらと思っています。」

### 研究職からの転身

研究の世界を10年以上続け、もっと視野を広げてみたいという思いを持っていた矢先に、沼田さんに異動の話が飛び込んできた。現在行っている研究開発が市場に求められているかどうかを調査する新設の部署とのこと。市場ニーズの収集が商品化に非常に重要であるという経験をしていた沼田さんは、研究以外の視野を広げることができるという期待をして、本年4月に異動した。「新しい組織のため、日々試行錯誤の連続ですが、これまで培ってきた研究者としての視点を忘れずに、取り組んでいきたいと思っています」と、抱負を語ってくれた。

インタビュー・文責：仲西 正  
(基幹研究院自然科学系教授)

### わたしのオフタイム

お宮参りや七五三には着物を着てお参りをし和を忘れないように心掛けている。子どもが大きくなってきたので、これからは大好きな歌舞伎鑑賞を再開したい。

# 附属学校園からのお知らせ

## いずみナーサリー



お茶の水女子大学附属いずみナーサリー（以下、ナーサリー）は、0～2歳児の乳幼児の通う小さな学内保育施設です。2002年に、前身である「いずみ保育所」が誕生。2005年にお茶の水女子大学附属いずみナーサリーとして、職員宿舎の一部を改築した、今の姿になりました。国立大学法人がこのような乳幼児保育施設を大学附属として設置・自立運営する例はとてもめずらしく、また、乳児保育の大切さの認識が深まりつつある時代性もあり、現場保育者・研究者・行政の方などいろいろな立場の方が国内外から見学に訪れることも少なくありません。

ナーサリーの大きな特徴のひとつは、保護者の必要性に応じて「日数選択制」をとっていることです。ナーサリーを利用する保護者は主に本学学生や教職員です。在園児全員が毎日通ってくる一般的な保

育園と大きく異なり、保護者の仕事や研究教育活動に応じて、月曜日から金曜日まで毎日やってくる子もいれば、週に1日だけ来る子もいます。通所日数の違いばかりでなく、一人ひとりの子どもの思い、子どもや保育に対する保護者の願いや心配のありようもいろいろです。私たち保育者は、それらいわば個別に生じる事柄にも丁寧に十分に応えたいと願いますが、同時に、あるいはそれ以上に、いろいろでありながらどの子も仲間の中でその子らしく豊かに育っていくための、連続性や統一性のあるカリキュラムの保証、「子どもが仲間とともに居るからこそいきいきと生活できる場」が実現することをめざしています。また、子どもたちの育つ姿に触れることで、大人も育ち、ひいては大学というコミュニティが生き生きと活力のあるものになっていくことにも寄与

したいと考えています。

ナーサリーには現在30余名の子どもが在籍し、保育者や年齢の近い子どもたちと一緒に一日を過ごしています。キャンパス内にお散歩に出かけ、皆で昼食やおやつを食べ、お昼寝をし、保育者に見守られて室内外でたっぷり遊んで、0、1、2、3歳という人生の始まりの時代をその子らしく過ごしています。人の「生きることのありよう」をライフロングに見つめる知性の集積地たるお茶大にとって、小さな子どもたちが、「楽しく」「安心して」寝食を含む生活をする場が大学内にあることの意味は、決して小さくないのではないのでしょうか。「いずみ」は、すべてのいのちの源であるとして、元学長の本田和子先生（児童学）によって、

その名を与えられました。学内で最も幼い、最もみ



## 附属学校園での出来事 (2015年7月～9月)

### 【いずみナーサリー】

#### 7月

- 七夕
- 木工ワークショップ
- 避難訓練(室内・地震)
- すいかわり

#### 8月

- 避難訓練
- 夏野菜収穫・調理

#### 9月

- 引き取り訓練
- お月見だんご作り

### 【附属幼稚園】

#### 7月

- 5歳児遠足
- 誕生会
- 第一学期終業式
- 5歳児有志親子 チャボ・畑の世話
- 夜の附属幼稚園でセミの羽化を観察する会

#### 8月

- ライフ×アート展参加

#### 9月

- 第二学期始業式
- 学級懇談会
- 避難訓練
- 4歳児遠足
- 引き取り訓練

### 【附属中学校】

#### 7月

- 第2回学力テスト(3年)
- 保護者会
- お茶の子バザー
- 志賀高原林間学校(2年)
- 夏休み開始

#### 8月

- 夏休み終了

#### 9月

- 第3回学力テスト(3年)
- 郊外園(2年)
- 保護者参観日
- 生徒祭

### 【附属高校】

#### 7月

- 学力テスト(1年)
- 保護者会
- 東工大パネルディスカッション "Woman in STEM"
- ジャパンソサエティよりジュニアフェロー受け入れ
- 終業式

#### 8月

- 東工大サマーチャレンジ
- アジア・ユースリーダーズ
- 物理学フィールドワーク@カミオカンテ
- 理数1日体験授業(中学生対象)

#### 9月

- 始業式
- 学力テスト(3年)
- 第II期教育実習
- 文化祭
- 第2回学校説明会
- 進路講演会(1年)

### 【附属小学校】

#### 7月

- 保護者会
- 校外学習(1年)
- 火おこし体験(3年)
- 芝生補植(5,6年)
- 卒業生のお話を聞く会(5年)
- 飯ごう炊さん(5年)
- 終業式

#### 8月

- 登校日(4,5,6年)
- 林間学校(4,5,6年)

#### 9月

- 始業式
- 不審者対応訓練
- 保護者会
- 開校137周年
- お月見の会(2年)
- 保護者参観期間

## 附属学校園からのお知らせ

ずみずしいのちたちが、今日もまた大学の中、いずみに集い、笑い、歌い、時に泣きます。ナーサリーは、幼い子どもとその傍らにいてくれる保護者のための、小さな小さな保育施設ですが、つながってくださる多くの方たちや、ふれあうすべての人たちにとっても、風通しのよい、陽のあたる“いずみ”でありたいと思っています。そして、子どもたちのはずむ声や姿が、たくさんの人に届き、その人たちが、生き生きと伸びやかに生きることにつながっていくとしたら、それはとてもうれしいことです。



# キャンパス点描

## 学部オープンキャンパス 2015 を開催しました .....

2015年7月18日(土)～20日(月)の3日間、学部オープンキャンパスを開催しました。猛暑にもかかわらず、6,300名を超える多くの受験生やご家族の方々にご参加いただきました。

全体説明会では、室伏きみ子学長からお茶大の紹介と受験生へのメッセージ、続いて高崎みどり副学長から多様な入試制度、お茶大の特徴的な教育プログラムである「複数プログラム選択履修制度」や「21世紀型文理融合リベラルアーツ教育」、多岐にわたるグローバル教育、本学独自の奨学金、学生寮などについての説明がありました。その後、学部長による学部・学科の説明があり、皆さん熱心に耳を傾けていました。



全体説明会後には、各学科・講座・コース別に、模擬授業や在学生による相談、研究室ツアーなど工夫を凝らしたプログラムが用意され、参加者から活発な質問が飛び交い、



夏の暑さに負けない熱気のある3日間となりました。

各学科・講座・コースでの質疑応答や模擬授業のアシスタント、オープンキャンパス全体の受付・案内などは本学の学生が担当し、受験生や保護者からの質問に熱心に答えていました。受験生からも、実際に在学生の声が聞けてお茶大のことがさらによく分かった、との声もいただきました。また、受付では、熱中症対策にお茶大オリジナルの水(非売品)も配布しました。来年度も引き続きオープンキャンパスを実施いたしますので、ぜひお越しください。

## Ms.Ocha (ミス オチャ) の第一弾グッズ



## 「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました .....



2015年8月24日(月)～25日(火)の2日間、「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました。

お茶大では平成28(2016)年度から、「新フンボルト入試」という新しいタイプのAO入試を導入する予定です。これに先立って今年の夏にこの入試の第一次選考部分にあたるプレゼミナールを先行実施しました。2日間にわたるプレゼミナールでは、お茶大の専門研究分野から選りすぐりのセミナー(文系：オープニングレクチャーと5つのセミナー、理系：12のセミナー)を開講し、文系理系合わせて250名を超える高校生と20名の高校の先生などに参加いただきました。なお、プレゼミナールは、受講生をAO入試の受験生だけに限定するのではなく、広く高校2・3年生や高校教員の方にも開放して、お茶大の校風や大学という知的世界を実地に体感してもらえる機会とするものです。



文系プログラムの図書館情報検索演習



理系プログラムのセミナーの様子

## 『Ms. マグ & ミニプレート』が誕生しました .....

大学グッズ開発  
卒業生プロジェクト  
とは...

2015年初夏、大学グッズ開発卒業生プロジェクト【Ms.Ocha(ミズ オチャ)】の第1弾グッズ『Ms. マグ & ミニプレート』が誕生しました。

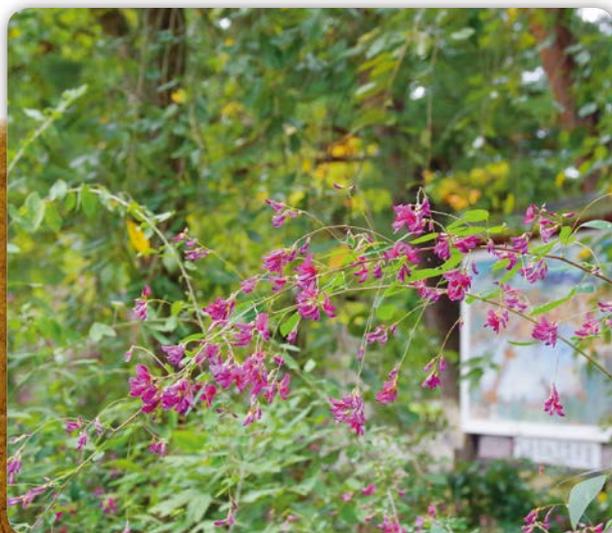
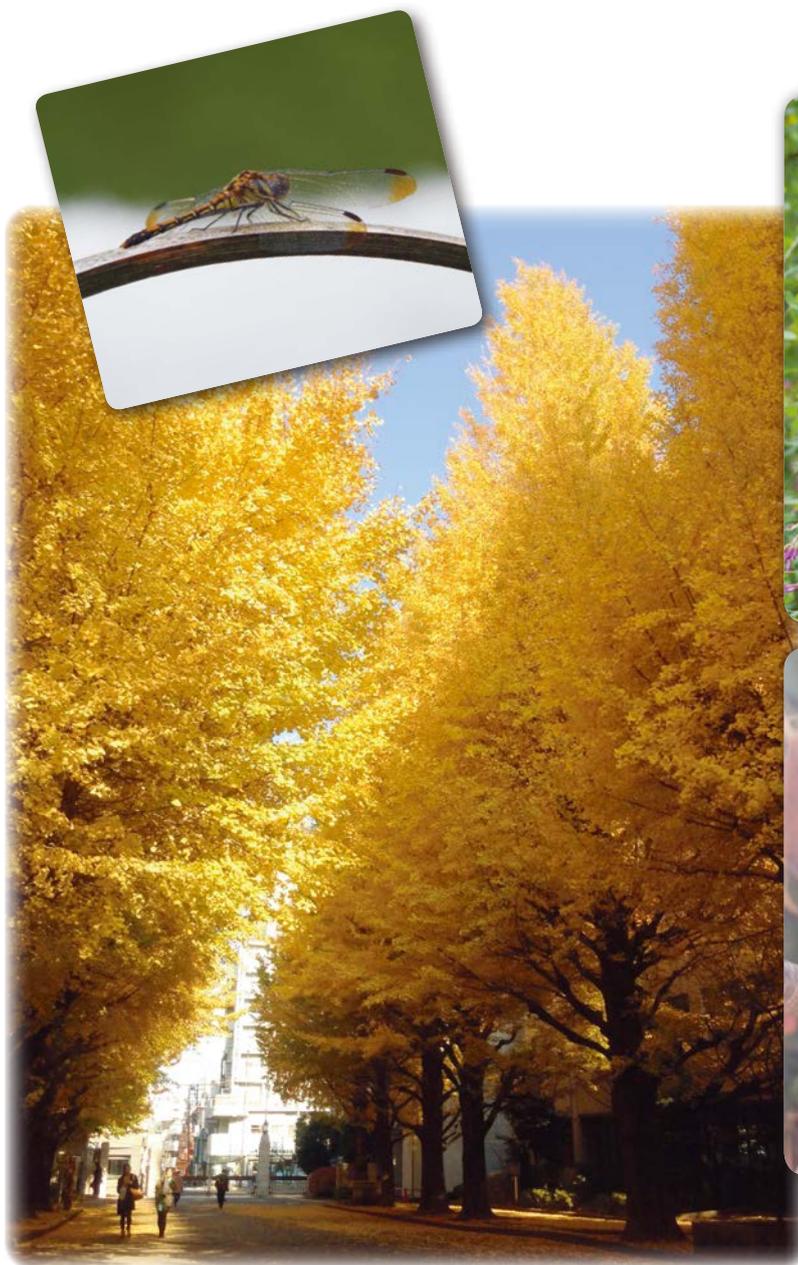
オフィスでもご自宅でもお使いいただける落ち着いたデザインのマグにちょっとしたおやつを入れたり、お砂糖とミルクを入れたりとシーンに合わせていろいろ楽しめるミニプレート付きです。大学生協にて1セット1,500円(税込)で販売中。

ぜひ『Ms. マグ & ミニプレート』と素敵なお時間をお過ごしください。

「卒業生と母校の絆を育み、卒業生同士もつながるきっかけとなるアイテムを、さまざまなライフスタイルに合わせて提供する」をコンセプトに、卒業生の方にもメンバーに加わっていただき商品開発を行っております。

Ms.Ocha(ミズ オチャ)ブランドは、「グッズに大学名を入れなくとも、卒業生に大学とのつながりを感じてもらいたい」と卒業生のメンバーが大学名をもじって考え出したものです。

キャンパス点描



写真：孫田 佳奈/圓谷 菜理

お茶の水女子大学学报 第246号

▽発行日：2015年11月7日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学  
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105

FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp

URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、  
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。